

# 「第 23 回 青少年のための科学の祭典・日立大会」 実施要綱

## 1 青少年のための科学の祭典の趣旨

1992年に始まった「青少年のための科学の祭典」は2022年で31年目を迎えます。科学技術の理解は単なる知識の伝達ではなく、観察・実験等の実体験が効果的だと言われ、とりわけ子供の頃に受けた感動や体験は原風景となり生涯残ると言われています。

“今、とにかく実体験の場が消えている！科学の魅力を体験できる機会を”という考えから、「青少年のための科学の祭典」は、科学技術の楽しさや面白さ、発見の喜びや感動を一人でも多くの青少年に体験してもらうことを目的としています。創造性と熱意に溢れた、小学校から大学に及ぶ先生方や生徒達が一堂に集まり、各々のユニークな手法でお祭りの出展のように、会場に理科の全分野を網羅した多彩な実験や工作を展開します。来場者は、その中で興味を持ったものに自ら参加し、不思議に思うことを講師に直接たずねたりしながら、科学技術の楽しさや面白さを体験できるのです。

「青少年のための科学の祭典」はこのような貴重な体験を皆で分かち合うことを目指した全国的な活動です。

**科学の祭典** …… 1992年に東京（科学技術館）、名古屋（名古屋市科学館）、大阪（ツイン 21MID タワー）で始まり、2000年の茨城県大会で全都道府県を一巡しました。現在、各都道府県では、県大会を契機として誕生した自主的な実行委員会により地方大会が実施されています。茨城県では、2000年に日立市で県大会（旧科学技術庁委託大会）が開かれ、その後、県内各地に自主大会の輪が広がりました。現在では、日立市、北茨城市、ひたちなか市、古河市、鹿行地区の5か所で毎年自主大会が開催され、全国でも盛んな県に成長しています。

## 2 日立大会の概要

### （1）日立大会の経緯

2000年12月、日立市池の川運動公園を会場に開かれた「青少年のための科学の祭典・茨城大会2000」は、国の委託大会としては全国一巡目最後の大会にあたり、過去最大規模で行われ、113件の出展に二日間で、市内全ての小中学生を含む約18,000人の来場者を集めました。各県を巡ってきた文部科学省（旧科学技術庁）の委託大会は、通常県庁所在地で開かれてきましたが、茨城大会は工都日立を背景に日立市での開催になりました。

県大会終了後、主催した実行委員会は、「この科学を楽しむ機運を茨城の子ども達に定着させるため、この祭典を続けよう。」と、日立市から参加していた県大会実行委員が中心となり、日立大会実行委員会が組織され、2001年以降途絶えることなく毎年開催しています。（新型コロナウイルスの感染拡大により2021年の大会のみ中止となりました。）

### （2）日立大会の実績

ア 茨城県初の国の委託大会（日立市にて開催）

- （ア）名 称 「青少年のための科学の祭典・茨城大会2000」
- （イ）開催形態 科学技術庁委託大会
- （ウ）期 日 平成12年12月9日（土）・10日（日）
- （エ）時 間 午前9時30分から午後3時30分まで（両日とも）
- （オ）会 場 日立市民運動公園中央体育館
- （カ）出展数 131ブース（展示を含む）
- （キ）来場者数 17,692人（二日間の合計）

## イ 自主大会

平成13年度の第1回大会から令和4年度の第22回大会まで20回の来場者数のべ71,163人（詳細は別表。第20回大会は新型コロナウイルス感染拡大防止のためWEBで開催し、第21回は中止とした。）

## 3 今年度開催の概要

### (1) 趣旨

子ども達の健全な成長には、子ども時代の五感を通じた体験活動が不可欠です。しかし、近年学校では授業数の削減に伴い、実験や工作の時間が減少しています。加えて、学校外においても自然体験が減少し、メディアへの過度な接触による人間性の発達の不備が問題化されるなど、子ども達が健全な発達を促される環境が著しく減少していることを実感しないわけには行きません。

一方で、子ども時代の印象的な体験が、その子のその後の興味関心を左右することを、私たち大人は経験的に感じています。これは、時代が変わろうとも変わることはありません。心ときめくすばらしい科学体験を、今の子どもたちにプレゼントしようではありませんか。

会場は、丸一日好奇心あふれる科学空間になります。子ども達の心には、いつか芽を出す科学の種が蒔かれると思われれます。

「楽しそう!」から「なぜ?」に、「なぜ?」から「そうか!」に。「一人でも多くの子どもに科学体験を提供し、一人でも多くの科学好きな子どもを増やす」を理念に、青少年のための科学の祭典・日立大会は、科学が好きな子どもの裾野を広げて行きます。

### (2) 主催等

ア 主催 青少年のための科学の祭典・日立大会 実行委員会

イ 共催 (公財)日立市民科学文化財団  
(公財)日本科学技術振興財団

ウ 後援 (全国)・文部科学省・全国科学館連携協議会・全国科学博物館協議会・NHKほか20団体  
(日立大会)

- ・茨城県教育委員会 ・茨城大学 ・茨城県高等学校教育研究会理化部
- ・茨城県高等学校教育研究会生物部 ・茨城県高等学校教育研究会地学部
- ・茨城県教育研究会理科教育研究部 ・(株)茨城放送 ・(株)茨城新聞社 ・日立商工会議所
- ・(株)日立製作所 ・日立市 ・日立市教育委員会 ・日立市立小・中学校PTA連合会
- ・(一社)茨城県子ども会育成連合会 ・(株)JWAY

エ 助成 ・子どもゆめ基金  
・(公財)東京応化科学技術振興財団  
・鈴縫工業(株)「おひさまの恵みプロジェクト」

オ 協賛 ・(株)赤羽根 ・(株)朝日精機製作所 ・石川クリニック ・石川内科ファミリークリニック

#### 前年度実績

- ・エムビー・サービス日本(株) ・おおたしろクリニック ・小川医院 ・かもめ動物病院
- ・グルコピア日立 ・個別スクール好學舎 ・(株)サクセス関 ・柴原皮膚科 ・島田外科医院
- ・常陽電機工業(株) ・助川電気工業(株) ・(株)関プレス ・大日本図書(株) ・(有)戸祭電気商会
- ・中山商事(株) ・日興建設(株) ・日精歯科 ・(株)日立機械 ・日立厚生医院 ・日立港病院
- ・日立桜ライオンズクラブ ・日立総合防災(株) ・日立デザイン(株) ・(株)日立物流東日本
- ・(株)ヒロエンタープライズ ・まさひろ歯科 ・(株)八幡鉄工所 ・(株)ゆなご教材舎
- ・弓野ホンダ販売(株)

### (3) 実行委員会

第1回大会以降、23年間にわたり教育界、産業界からの有志によって構成されています。

実行委員長 松本 幸次（元日立市立助川中学校長）  
副委員長 岩波 英一（日立市文化協会会長） 萩谷 薫（元茨城県立高萩清松高等学校長）  
諸橋 正和（日立市教育研究会・理科教育研究部長、日立市立坂本中学校長）  
委員 照山 雄三（元助川電気工業㈱技術本部装置第1設計部）  
根本 充（㈱日立製作所電力ビジネスユニット日立事業所総務部庶務課）  
城塚達也、宮本賢伍（茨城大学工学部） 作間 忍（元日立市教育委員会部長）  
大貫 啓太、椎名 慶典（県立日立第一高等学校附属中学校教諭）  
正木 啓道、倉橋久美（日立市教育委員会指導課） 大津 政美（日立市視聴覚センター）  
滝 裕子（高萩市立秋山中学校教諭） 木村 安秀（日立市立中小路小学校教諭）  
吉村 徹也（日立市立中里中学校教諭） 大内美香子（日立市立久慈中学校教諭）  
海野 悟（茨城高等学校非常勤講師） 川崎 寿則（(公財)日立市民科学文化財団科学館事業課長）  
成田ひとみ（元中学校理科担当）  
事務局 國井 篤（前日立市立櫛形小学校副校長） 飛田 賀光（日立市総務部）  
神山 智恵美（日立市教育委員会生涯学習課）

(4) 期 日 令和5年10月29日（日）

(5) 時 間 午前9時30分から午後3時30分まで

(6) 会 場 日立シビックセンター マーブルホールほか（日立市幸町、JR日立駅前）

(7) 出展数 55ブース程度

(8) 特別企画 科学研究作品展 ※ 理科自由研究の市内優秀作品展示及びミニプレゼンテーション  
小学生プログラミングコンテスト「ひたち<sup>キッズ</sup>プログラミングコンテスト2023」

(9) 入場料 無料

(10) 制作物

ア PRチラシ(A4両面) 約53,500枚

…… 水戸市、大洗町、ひたちなか市、東海村、那珂市、常陸太田市、日立市、  
高萩市、北茨城市の小中学生に配布

イ 実験解説集(A4判、約60ページ) 1,000部 …… 出展者及び来場者に無料配布

以上

## (別表)

	期 日	出 展 数	来場者数	会 場		
				マブホール	ビレッジセンター	新都市広場
第1回	平成14年2月9日(土)	40ブース	3,246人	○		○
第2回	平成15年1月11日(土)	39ブース	4,314人	○		○
第3回	平成15年12月7日(日)	60ブース	4,107人	○	ギャラリー	○
第4回	平成16年11月7日(日)	56ブース	3,800人	○	ギャラリー	○
第5回	平成17年12月4日(日)	55ブース	2,122人	○		
第6回	平成18年11月12日(日)	31ブース	2,336人	○		
第7回	平成19年11月4日(日)	44ブース	4,188人	○	ギャラリー	
第8回	平成20年12月7日(日)	44ブース	4,194人	○		○
第9回	平成21年11月22日(日)	43ブース	2,476人	○		○
第10回	平成22年11月28日(日)	46ブース	3,470人	○		○
第11回	平成23年11月13日(日)	46ブース	2,810人	○		○
第12回	平成24年12月15日(日)	24ブース	403人	日立市教育プラザ		
第13回	平成25年12月1日(日)	45ブース	4,980人	○	ギャラリー	○
第14回	平成26年11月30日(日)	56ブース	5,120人	○	ギャラリー	○
第15回	平成27年11月29日(日)	50ブース	5,812人	○	アトリウム	○
		サイエンスセミナー(2講座)				
第16回	平成28年11月27日(日)	54ブース	2,995人	○	ギャラリー	○
		特別講演会 46人				
第17回	平成29年11月26日(日)	52ブース	3,033人	○	科学館、 ギャラリー	○
		特別講演会 68人				
第18回	平成30年12月2日(日)	60ブース	3,912人	○	科学館、 ギャラリー	○
		みらい実験教室 35人				
		天文講演会 131人				
第19回	令和元年12月1日(日)	55ブース	4,124人	○	科学館、 ギャラリー アトリウム	○
		みらい実験教室 I、II 61人				
		科学研究作品展 50作品 同 プレゼン 13人				
第20回	<b>【WEB開催】</b> 令和2年12月上旬～	・日立大会 HP の立ち上げ ・公式 YouTube チャンネル(オリジナル 実験工作動画 20本) ・ペーパークラフト付き HP 紹介チラシの配布				
第21回	中 止	(新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止)				
第22回	令和4年10月23日(日)	45ブース	3,367人	○	科学館、 ギャラリー アトリウム	○
		科学講演会 23人 科学研究作品展 52作品 同 プレゼン 26人				
<b>延べ 71,163 人 (第20回及び第21回を除く)</b>						

※ 時間は、いずれも午前9時30分から午後3時30分まで